

2003 02.01-02

氷ノ山山スキー

天候：雪・ガス・吹雪・晴れ



メンバー：石野美輝郎・横小路利朗・大塚賢一・大倉康治・大本誠二

コース：県境稜線-三ノ丸-山頂（泊）-三ノ丸-県境稜線

=幽玄の世界にいざなわれて=

静寂の中で白い世界が宴をしているようだ。

今この瞬間を生きていてよかったと思えるほど素晴らしい。この氷ノ山でブナやミズナラの枝にこれほどの素晴らしいエビの尻尾を咲かせているのは見たことがない。三の丸から山頂への稜線は巨大杉をモンスターに仕立てあげる自然の脅威に圧倒される。大自然が作り出した雪花乱舞にはどんなきれいな花でもかなわないだろう。この聖地に足を踏み入れた者にしか見られない世界である。極寒・極乾・降雪と三拍子揃わなければ氷ノ山でこんなパフパフのパウダーにはお目がかかれぬ。



巨大モンスター



雪花乱舞

1日 曇り-雪-ガス -1度~-0度

4:30 ポプラ集合

6:50 新戸倉隧道手前駐車場着



旗竿持ってフル装備

7:20 -1度 スタート

29号線の両側には1m程の雪壁が積もっている。新戸倉隧道の右の雪壁に上がりシール登行開始。雪がちらほらと降って空は曇り空。今日は山友会と姫山会のメンバー5人も同じく県境稜線から入山するが、我々とは別行動である。我々は山頂泊で彼らは大段平泊である。

このコースは初めてなので旗竿、赤布を持参する。装備はトレーニングなので当然フル装備でハーネス・ザイル・ピッケル・アイゼン・スコップ・ゾンデ棒・テント類は常備している。

8:20 900m 戸倉峠着

シールでサクサクと緩やかな長い長い林道歩きやっとう戸倉峠に到着。

9:04 1030m 林道からそれで稜線へ

戸倉峠からしばらく林道を行くと眼前にデッカイ3本杉が現れる、そ



大きな3本杉



白い杉林へ

れを目印に取り付きやすいところから杉林へと消えていく。杉林の中は昨夜の吹雪のために谷側だけが吹きさらしになり濃緑の杉が真っ白く染まっている、普段は杉林の中は薄暗くうっとうしいのにとっても明るい。雪は深く軽く30cmは新雪が積もっている。

9:20 1075m 県境稜線

杉林を抜けると視界も広くなり、青空が少し顔を出してきた。ここから三ノ丸の大雪原が見えるのだが、少々ガスって見えない。

10:04 1100m

カラマツ林の枝が霧氷に覆われてクリスタル化している。

10:45 1200m



ミスナラの花

ミスナラとブナ林がものすごく綺麗にエビの尻尾で飾られて、とんでもなく美しい。ビデオや写真をいくら撮っても物足りないくらいだ!。

11:50 1385m

もうすぐ三ノ丸雪原だ。しかし眼前に見える雪原はガスでホワイトアウト化している。先に行く石野氏達が雪原彷徨してる

ようだ。目標物がなくなれば完全にホワイトアウトである。寒さのためにビデオやデジカメが作動しにくくなる。手が冷たい。温度計はマ



三ノ丸ピーク

イナス6度を指している。

12:28 1460m

三ノ丸避難小屋

三ノ丸避難小屋を素通りして1464mピークを過ぎて山頂へ向かう。

12:48 稜線

三ノ丸と山頂の稜線はものす

ごい雪に覆われてとてつもない美しい世界が広がっている。巨大杉のモンスターは200kgくらいの雪に閉ざされてホントに重たそうであるが頑張って仁王立ちをしている姿には圧倒される。

13:12 トラバース

樹林帯を抜けてカールをトラバースして山頂への直登が始まる。

13:28 1510m

山頂小屋到着

あ～あ、腹減った。姫山会のメンバーは先にくつろいでいて、我々が2階で



三ノ丸・山頂の稜線



山頂小屋

食事をとっている時に大段平へと滑っていったようだ。

14:24

小屋内に畳みを敷き、毛布を敷きと上等な山小屋である。小屋で食事をとってくつろいでいたが外は一向に天候が回復しないようだ。

13:15

酒盛りをするにも早すぎるのでシビレを切らして、滑る態勢に入る。視界は100mくらいあるので北壁は危険すぎるので山頂から真南のブナ林のお気に入りコースへと滑降することにした。白いブナ林まで滑



パウダー蹴散らしカッ飛ぶ私

ると無風になり視界も完全に広がり静寂の中を我々の歓声だけが聞こえる、膝上パウダーに酔いしれて超ご機嫌である。昨年の御嶽山よりもすごい、こんなパウダーは私も初めてでウハウハである。その極上パウダーを登り返して滑降



楽しい晩餐会

すること3回・・・  
存分に白い粉に酔  
いしれる。

17:30 小屋着  
タイムリミット  
ぎりぎりまで滑っ  
ていた、また大倉  
氏と大本が少々  
シールで手こずっ  
て時間が食い込ん  
で最後の山頂小屋  
への登りに視界が  
殆ど無くなり15

mほどになる。磁石で真北をトレースしていくとドンピシャに小屋にたどり着く。

#### 20:30 就寝

小屋内は我々だけで広々としたところは少々寒いくらいだ。気温は中はマイナス5度で外はマイナス10度を指していた。持ってきたポカリも当然に凍っていて全くに飲める状態ではない。重い目をして持ち上がってきたビールや焼酎にウインナーやハムのステーキで多めに盛り上がり寒さを吹き飛ばすほどに晩餐会は続いたが、しゃべる息は絶えず白かった。

#### 2日 強ガス-吹雪-曇り-晴れ -10度~-1度

#### 7:00 起床

今日は下山するだけなのでゆっくりめに起きる。  
私は冬でもいつも真夏用のシュラフで寝るのだが、今回はモンベルの1#を持ってきたので朝には汗をかいていた。やはりアンダー着さえしっかりしていればマイナス10度くらいまでは真夏用で十分である。

私の朝食はレーズンパン3つとコーヒーとポタージュ。十分に行動できる食料である。

#### 9:15 1510m 下山開始

9時頃に下で他のパーティーが上がってきたらしく声が聞こえる。昨日の姫山会かと思



下山用意

日の姫山会かと思  
ったが、違う  
パーティーで60  
才は過ぎているだ  
ろうと思われる男  
性を筆頭に50代、  
40代の女性も混  
じった5人パー  
ティーであった。  
彼らも山スキー  
ヤーである。あま  
りにも早い登頂な  
ので聞くと、何と  
坂の谷辺りにテン

トを張っていたそうだ。なんと強靱なパーティーなのか、驚いてしまった。いくら装備をデポしているからと言ってこんな視界の悪い中を朝早くから山頂へとよく来たものである。

装備を済ましていると、姫山会パーティーが上がってきた。彼らは車をヤマメ茶屋にデポしているので坂の谷へ下り降りるとのことであった。我々は忠実に来たルートを下る。

#### 9:45 稜線 シール

山頂からカールまで滑降して、シールで稜線歩きをする。昨夜から降り続けている雪が極冷えの中にパウダーで積もっているが視界が昨日より悪いので滑降は残念ながら断念する。またトレースも三ノ丸手前の吹きさらしでは全く消えてしまっている。完全に白い世界の彷徨である。しかしそれもここら辺りだけで1300m付近から下はガスも



モンスター

無くなっている  
だろう。

10:18 1464 m  
三ノ丸ピーク  
滑降

残念ながら、極  
冷えのためにビ  
デオもデジカメ  
も作動しなく  
なってしまった。  
またおニューの  
ファン付きゴー  
グルも曇りだし

て凍ってしまった。まだサングラスの方がましであった。

視界がままならい危険な滑降になるのでコンパスを1250 m地点の稜線、260度方向に合わせて忠実に滑降していく。2パーティーとは無事の下山を祈ってここで別れる。

10:45 1250 m

少し東にそれたがそれもすぐに気づきコース修正する。山頂からの滑降は昨日よりすごいパウダーであったがホワイトアウトのために快適とは言えず慎重にならざるをえない。

ここまでくればガスもすっかり無くなって昨日の旗竿や赤布をたよりにトレースを見つける。

やはり吹雪いているのは山頂付近の1400 mから上であった。

12:25 1030 m 林道

ブナやミズナラの木はより一層の雪を覆い本当に美しくなっている。しかし1100 mから下は雪も降っていないようで昨日のクリスタルに輝いていたカラマツはふつうの樹林になっていた。稜線からの杉林の中でも滑降はザックから飛び出た旗竿がじゃまになって非常に滑りにくく難儀してしまった。

13:15 無事下山

駐車場に無事にたどり着いて、帰り支度をしていると、姫山会もデポの車を取りにきた、お互いの無事を確認して帰路につく。

PS

一度はこの極寒の時期をねらって氷ノ山へと思っていたのがついに実現できて満足感一杯である。2年続けて正月の厳冬期に中央アルプスに登っているので冬季はどんな状態かは見当ついていたが、この氷ノ山の厳冬期はどこにも負けにくいくらいに素晴らしい山であることを絶賛したい。

素晴らしきプレゼントをしてくれた氷ノ山の山の神に感謝するしだいである！



氷ノ山に感謝！！